

岸和田市郷土文化室（自然資料館・郷土資料館）

平成 15 年 12 月

難しいほどわかりやすい！？

長谷川 智子

みなさんは、美術館や資料館、博物館の展覧会を見学するとき、どこに目を向けますか？一つずつじっくり説明文を読み、ケースの中のを眺めて「わあ、すごい」と思い、また目録を手に見学する、といった具合でしょうか。それとも、説明文の漢字を見て、「難しい」、「疲れた」と感じるでしょうか。展示してあるものは展覧会によって多様で、絵画であったり、工芸であったり、古文書こもんじょであったりします。同じ展覧会を見学しても、見学の仕方は興味などによって人それぞれです。

私は、年に数回、古文書や工芸品、発掘資料など様々な分野の展覧会を見学します。たいていの場合、あいさつ文や一つ一つの説明文を読みながら見学します。しかし、自ら進んで見に行かない分野が一つあります。それは青銅器の展覧会で、理由は「わからない」からです。青銅器というと、銅鐸、銅剣、銅矛、鏡などが良く知られています。先日、私は、青銅器の展覧会を見学する機会に恵まれました。それも、日本のものでなく、中国の青銅器の展覧会です。私の青銅器に対するイメージは、「変な形で何に使うかわからない。ものの名前は難しい漢字で、おまけに何のことかわからない」という最悪なものでした。青銅器の名称は、例えば「象頭ぞうとう？？」や「螺鈿らでん鴛鴦おうぼう宝相華文八花鏡ほうそうけもんはっかきよう」というとても読みにくく、一見意味がわからないものが多いのです。今回もそのようなイメージで見学を始めました。ところが、出口に近づく頃には不思議と青銅器に対して親しみを覚えていたのです。好きでない分野でも説明文のおかげで、ちょっとは好きになることができたのだと思います。説明文には青銅器のモチーフについて、動物の写実的文様や体の一部を集めた文様が「もの」のどこの部分を指すのかなど、私が難しいと思いこんでいた部分に対して図と共に書いてあり、とても理解しやすいもので、どのように青銅器を見ればよいのかという指南になりました。

しばしば展覧会場で「難しい漢字ばかり並んでいて、何のことがよくわからない」と耳にすることがあります。この言葉はまさしく私が青銅器に対してもっていたイメージそのままです。しかし、説明文が難しいほど、「もの」の説明がなされているということを改めて実感しました。先の青銅器を説明すると、「象頭？？」は、「象の形をした飾りが上に付いている酒を入れて注ぐ容器」ということになります。ほかの例を挙げると、宮内庁蔵正倉院の「螺鈿紫檀五絃琵琶らでんしたんごげんびわ」、学校のテキストでは「びわ」、「五絃琵琶」と紹介してあるものです。テキストなどで写真を見て知っていても、展覧会場で実物を見ると説明文の漢字を

見るやいなや難しいものと思い込んでしまい「疲れた」という感想しか残らないかもしれません。では、「螺鈿紫檀五絃琵琶」とは何でしょうか。これは四つの単語が繋がっているだけです。「螺鈿」は夜行貝を使用した装飾、「紫檀」は木の種類、琵琶は普通四絃なので五絃と明記してあるのです。このように一つ一つの単語が繋がっているということがわかれば、単に琵琶の説明をしてあるだけで、何ら難しいことはないことが分かるでしょう。身近なところでは、郷土資料館蔵の「むらさきいとあどしい よ ざねよんまいどうぐそく紫系威伊予札四枚胴具足」があります。これも難しい漢字が繋がって、具足の説明がしてあるのです。

わからない、取っ付きにくいと思っているものでも、ふとしたことで面白く思えてきます。展覧会を見学する際のちょっとしたヒントになるとうれしいです。

（はせがわともこ：郷土文化室）

「どこにあるか」を調べてみる

村上健太郎

自然資料館には日々いろいろな質問が寄せられますが、その中には「○○という植物はどこにありますか？」といったものがよくあります。今秋も、「クヌギのドングリを拾いたいのですが、どこにあるのでしょうか？」という質問が来ましたし、他にも「リンドウはまだありますか？」「キキョウはないですか？」「オミナエシは？」といった具合です。しかし、このような生育場所に関する質問には、しばしば返答に困ることがあります。最近では、植物種が絶滅の危機に瀕している理由の一つに「園芸用採集」が挙げられているので、稀少種の産地がよからぬ人に知られ、採集されることをおそれるからです。しかし、地域にどんな生物がいて、どんな環境なのかを学習するためには、いろいろな生物の細かい分布情報を知りたいと思うのは当然のことでしょう。たとえば、岸和田市内には海岸から丘陵地、山地までさまざまな環境があり、植物の分布から見た場合にも、こうした環境の違いに対応してそれぞれ違った種が出現します。このような植物の分布の違いを調べることができるのであれば、「この地域は、植物から見たらどんな環境なのだろう？」「この地域には、どんな植物があるのだろう？」という疑問を総合学習のテーマに取り上げやすいと思います。そこで今回は、岸和田市内に限らず、維管束植物の分布情報を調べるのに参考になる文献などの紹介をしたいと思います。

まず、植物の分布を調べる最も簡単な方法は図鑑を調べることです。日本全国あるいは世界での分布については、一般的な植物図鑑で調べることができます。しかし、もっと細かいスケールの情報、たとえば大阪府内ではどうなのか、岸和田市内ではどうなのかといったことを知りたいときには、市販の図鑑ではわからないことがほとんどでしょう。その場合には、別の文献を見る必要があります。

大阪府内の植物分布情報を示した文献としては、『大阪府植物誌』や『大阪府植物目録』があります。『大阪府植物誌』は1938年に出版されたものと1962年に出版された増補・改訂版の二種類がありますが、自然資料館にあるのは、増補・改訂版のほうですので、これを参考にお話しします。この本には、大阪府の植物に関するさまざまな情報が載せられており、植物分布の概説や各地域の植物案内のほか、種ごとの分布情報を見ることができます。ただし、この文献では、普通に見られる種に関しては「普通」とされているだけで、地名までは書かれていません。たとえば、クヌギと同じブナ科のカシワでは、分布情報として「西能勢、鴻応山、豊川奥 [山地・稀]」と具体的な地名が挙げられているのに対し、クヌギでは[山地・普通]と書かれているだけです。そして、この文献をもとに30年近くを経て1990年に出版されたものが『大阪府植物目録』です。この文献には、さらに詳しい情報が掲載されており、普通種に関しても産地名

が書かれています。クヌギに関しては妙見山など、19箇所の情報があります。もちろん普通種の場合は、掲載産地以外にも多くの場所にあるということは理解しておく必要があるでしょう。これらの文献は、実際の採集記録に基づいており、その情報は信頼のおけるものです。ともに自然資料館で閲覧することができますし、『大阪府植物誌』については、岸和田市立図書館本館でも閲覧可能です。

では、さらに細かく市内の分布情報を調べることは可能でしょうか？残念ながら岸和田市に限定すると、標本に基づいた植物目録としてよいものではありませんが、ある程度分布がわかる資料はいくつかあります。たとえば、2000年から2001年にかけて、岸和田市環境保全課の事業として行われた市内の自然環境調査については、その成果の一部を、インターネットで閲覧することができます（ホームページ：“岸和田の自然”）。とくに、岸和田を校区ごとに調査した資料は有用だと思います。この資料には、一定のルート沿いの植物を調べた結果がまとめられており、校区内にある植物がすべて網羅されているものではありませんが、学校の授業で地域の植物を扱うための資料としてはよいものだと思います。これを使って、校区ごとのデータからクヌギの分布情報を調べてみると、大宮、東光、東葛城、城北、新条、八木南、山直南、光明、山滝の各校区内に記録があることがわかります。これを用いることで、植物から見た地域環境の評価をすることも、ある程度は可能でしょう。岸和田市以外の市町村では、植物目録が出されているところ（多くは地元の同好会などによる）は意外に多く、たとえば、『堺市植物目録』では、堺市内を600以上のメッシュに区切り、種ごとの分布が調べられています。このような市町村単位の植物目録は、比較的狭い地域内での分布を知る上で有用です。

環境の変化について調べたい場合は、古い記録をあたってみたいと思うかもしれません。1930年に発行された『泉南地方植物誌』は、泉南地方の植物目録としては貴重なもので、残念ながら細かい産地情報までは書かれていないものの、当時の泉南に見られた植物の概要を知ることができます。これ以降で、まとめた目録は、ほとんどありませんが、蘚苔類の研究者であった故・中島徳一郎氏は、維管束植物についても分布情報を記した手書きのノート（きしわだ自然資料館収蔵）を残されています。これは、1950年代～70年代の記録で、市内の産地についての情報が書かれています。また、これらの記録の一部は、採集標本としても残されており、かつての岸和田で見られた植物を知ることのできる貴重なものです。こうした資料については、普段は公開していませんが、閲覧したいという場合は、自然資料館の村上へ直接ご相談ください。

このように、自然資料館などの博物館、図書館やインターネットなどを利用すれば、数多くの植物の分布情報を調べることができます。もちろんその中には、最初に書いたように、皆さんからの質問を受けても、産地を教えることができないものもあります。しかし、現在どのような場所にあるのか、過去にどのような場所にあったのかを調べることは皆さんの努力でもある程度可能ですし、そんな作業の中から、自然への興味がわいてくることもあるでしょう。リンドウやオミナエシは、大阪では絶滅危惧種の指定はされていませんが、岸和田周辺で植物を見つづけている人からすると、「最近、あまり見かけなくなったなあ・・・」という植物のようです。『大阪府における保護上重要な野生生物』（2000）によれば、キキョウというかつては普通だった植物が、現在は大阪府内で準絶滅危惧に、全国レベルでは絶滅危惧類に指定されているそうです。「どこにある？」「どんなところにある？」「あまり見かけなくなったなあ・・・」という「思い」を「科学」することは、自然環境について学ぶ大切な第一歩になりえると思います。

（むらかみけんたろう：自然資料館学芸員）

（参考文献） 田代善太郎・堀勝（1938）：大阪府植物誌：池田師範学校（未見）／堀勝（1962）：大阪府植物誌：六月社／桑島正二（1990）：大阪府植物目録：近畿植物同好会／岸和田の自然：URL: <http://www.city>

Information

■ 自然資料館からのお知らせ ■

(1) フィールドセミナー「新春化石採集会」

- ・ 日時: 2004 年 1 月 17 日 (土) 10:30 ~
- ・ 場所: 和泉山脈内 (当選した方にお知らせします)
- ・ 講師: 高田雅彦氏 (きしわだ自然資料館専門員) ほか
- ・ 定員: 小学生以上 30 名 (小学生は保護者同伴で)
- ・ 申込期日: 2003 年 12 月 15 日 ~ 12 月 25 日 (必着)

(2) 講演会「21 世紀の大地震」

- ・ 日時: 2004 年 1 月 25 日 (日) 13:30 ~
- ・ 場所: きしわだ自然資料館
- ・ 講師: 寒川旭氏 (産業技術総合研究所関西地質調査連携研究体研究員)

- ・ 定員: 小学生以上 50 名 (小学生は保護者同伴で)

- ・ 申込期日: 2004 年 1 月 3 日 ~ 1 月 15 日 (必着)

(3) お散歩自然観察会「東ヶ丘と摩湯町」

- ・ 日時: 2004 年 2 月 11 日 (水・祝)・13:30 ~
- ・ 場所: 東ヶ丘町・摩湯町周辺のため池や雑木林
- ・ 講師: 西村静代氏 (きしわだ自然友の会副会長) ほか
- ・ 定員: 40 名 (小学生以下は保護者同伴で)
- ・ 申込期日: 2004 年 1 月 15 日 ~ 1 月 29 日 (必着)

■ 申込方法 (上記(1), (2), (3)): 往復はがきかメール (携帯不可) で、参加者全員 (保護者も) の住所 (郵便番号含む)・氏名・年齢 (学年)・電話番号を記入し、期日以内に、きしわだ自然資料館「化石」または「地震」、「まゆ」係まで。申し込み多数の場合は抽選となります。

■ 申込先: 下記 (きしわだ自然資料館まで)

(4) 第 2 回メランジェゼミ

地域の自然に関する講演、研究発表会を行います。長年収集した研究成果を、ぜひ聞きに来てください。

- ・ 日時: 2004 年 2 月 1 日 (日) 10:30 ~
- ・ 場所: きしわだ自然資料館 1 階ホール
- ・ 発表者: きしわだ自然友の会会員、自然資料館学芸員など (1 発表あたり、10 分 ~ 30 分)
- ・ 内容: 岸和田城にカメ何匹 ~ 岸和田城カメ調査の成果、化石、博物学史、昆虫、植物など (予定)

■ 郷土資料館からのお知らせ ■

■ 企画展「館蔵の屏風」

屏風とは本来、「風を屏(ふせ)ぐ」の意味で、広い部屋の間仕切りとして使われた調度品です。屏風には絵や漢詩などを書いて装飾され、日本の代表的な美術品にも屏風に仕立てられた作品が多く残されています。今回の企画展では、当館で収蔵する屏風仕立ての書画作品 6 点を紹介します。

- ・ 会期: 平成 15 年 12 月 3 日 (木) ~ 平成 16 年 3 月 14 日 (日)
- ・ 時間: 午前 10 時 ~ 午後 5 時 (入場は 4 時まで)
- ・ 入場料: 大人 200 円・小中学生 100 円
- ・ 展示作品
池大雅・福原五岳筆「高士図」6 曲 1 双 (江戸中期) / 「二十四孝図」6 曲 1 双 (江戸時代) / 「相馬九方書屏風」2 曲 1 隻 (明治 7 年) / 小川翠村筆「春秋」6 曲 1 双 (昭和 16 年)

お願い [fromM] は、学校教職員に 1 部ずつお配りください。担当の方はお忙しいところ申し訳ございませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記のところまでお送りください。電子メールでも受け付けております。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL (0724)23-8100 FAX (0724)23-8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/sosiki/k-nature/>

